

中たオルプロジェクトとは？

不要なタオルを回収し、地域のシニア世代や高校生の皆さんらが雑巾を作成し、市内の小学校に寄付するというもので、(有)中田薬局が行っています。

目指すもの

●SDGsへの貢献

- ・小学校への寄付の際にSDGsの啓発授業に取り組みます
- ・地域全体へのSDGsに関する理解を醸成します

●地域コミュニティの形成

- ・地域と学校が共同で製作することで、より密接なコミュニティを創るとともに、多世代間の交流につなげます



シニアの人の指導を吸収して、メキメキとミシンの腕も上達



7月11日に釜石小に187枚の「中たオル」を寄贈しました

プロジェクトに関わる Key Person

中田薬局元インターン生として、この事業の中心的な役割を担う佐々木優奈さんと高校生らにミシンの使い方などを教える坂本慶子さんにお話を伺いました。

より良い地域を 自分たちで作る



中田薬局元インターン生
岩手大学3年
佐々木 優奈 さん

SDGsの推進のためにも、こうした取り組みを小学生や高校生に紹介し、きっかけを作ってあげること、いずれは自分事として捉えてもらえればと考えています。最終的には、自然にこうしたコミュニティができ、一人一人がSDGsについてできることを実践し、より良い地域を自分たちで作っていくという意識が芽生えていけばいいと思います。

一日一善の 気持ちで



甲子地区パッチワークサークル
ひまわり会会長
坂本 慶子 さん

私たちは元々、公民館で「同世代の交流の場」ということで、パッチワークの教室をやっていました。そこで、この「中たオル」の取り組みをやってみないかと声を掛けられ、活動が始まりました。これまでは近くに住んでいても、高校生との交流の場は無かったので、自分の孫と同じ世代の生徒さんたちにミシンを教えることは自分たちも楽しいですし、エネルギーをもらっています。孫にもこの活動を話したら「SDGsの取り組みをしているなんて、おばあちゃんすごいね」と言われ、うれしい気持ちになりました。今後も「一日一善」の気持ちでやっていこうと思います。このコミュニティが中学生などの違う世代にも広がっていけばいいですね。